（様式２）

令和7年度　学校園評価シート

学校園名	加古川市立浜の宮幼稚園

1　教育目標　　心豊かに学びあい　育ちあうこどもの育成

2　基本方針

基本的生活習慣の確立と情緒の安定を図る。
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考慮して指導を行い、幼児が主体的に遊びを展開できるような環境を構成する。
幼児の特性や発達段階に応じた教育的ニーズを把握し、一人一人に応じた支援・指導を行う。

3　指導目標

心も体も健やかで明るい子　　思いやりがあり　心の優しい子　　様々な経験を通して　主体的に遊ぶ子
自分の思いを伝え　素直に表現する子　　感じる心　考える力がある子

評価基準
A:できている　　B:だいたいできている　　C:あまりできていない　　D:できていない　　E：わからない

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ（関係者評価）	達成状況
①基本的生活習慣の確立を図る。	◎元気に挨拶をしたり、身の回りのことを自分でしようとしたりしているか。 ◎人の話を聞く大切さに気付いているか。	B	・教師の挨拶には応じる姿は見られるが、自ら進んで挨拶をする姿は十分とはいえない。家庭と連携を図りながら、今後も「あいさつ当番」の取り組みを継続し、主体的に挨拶する態度の育成に努める。。 ・自分の思いを伝えようとする姿はあるが、相手の話を聞く姿勢には課題がある。対話の機会を意図的に設け、相手の話に耳を傾ける経験を積み重ねていく。	・挨拶や話を聞く態度の育成は幼児期において容易ではないが、重要な取り組みである。日々の積み重ねが力となるため、今後も継続した実践が求められる。統合を控え新たな体制へ移行する中であっても丁寧に取り組んでいる点が評価できる。家庭との連携をより一層図ることが、効果的な実践につながると考える。	B
②道徳性の芽生えを培う。	◎遊びや活動を通して友達の良さに気付き、自分も相手も大切にし認め合う心が育っているか。	B	・少人数の特性を生かし、園全体で友達と関わる楽しさや安心感を味わっている。一方で、友達同士のトラブルも見られるため、教師が仲立ちとなり、相手の気持ちに気付けるよう丁寧に関わりながら、仲間意識が深まるように援助していく。	・行事等を通して、こども同士が自然に助け合い、認め合う姿が見られ、教育活動の成果が表れていると考えられる。	A
③思いやりの心をもち、自立と協同の態度を培う。	◎親子・異年齢児・地域とのさまざまな関わりの中で愛情や信頼感、見守られている安心感を感じ、自分を大切に思う気持ちや自信が育っているか。	B	・地域との繋がりを通して、絵本の読み聞かせや地域探検など、幼児の興味・関心が広がる多様な経験を重ねることができた。また、年間を通して4・5歳児合同保育を実施したことで、異年齢との関わりが深まり、安心して園生活送る姿が見られた。 ・自信をもちにくい幼児については、一人一人の良さを認め、家庭や地域とも共有しながら、自己肯定感の育成につなげる。	・園児がのびのびと安心して過ごしている様子から、自己肯定感が育ちつつあることが感じられる。今後は日常の具体的な取り組みや成果の発信をさらに充実させることで、より一層明確になると考える。	B
④小学校教育・地域との連携を図る。	◎小学校や地域の方など、縦横のつながりや地域の教育力を活かすことができたか。	B	・小学校や保育園との交流、地域での買い物体験や町探検、園庭での畑づくり等、近隣校園や地域の協力により、園内だけでは得られない多様な経験を行うことができた。今後も計画的・継続的に交流や連携を推進していく。	・地域との連携を大切にしながら、教育活動を進めている姿勢は評価できる。統合後においても地域とのつながりを継続し、こどもたちの育ちを支える基盤となることを期待する。	A
⑤職員の資質向上を目指す。	◎職員同士が園内で遊びや活動の連携、幼児についての共通理解に努め、幼児がやってみようとする保育に努めることができたか。	B	・職員数が限られる中、日々の幼児の姿や興味・関心について情報共有を密に行い、研修での学びを保育実践に生かしながら、援助や環境構成の工夫に努めてきた。今後も職員間の連携を一層深め、チームとしての組織力向上を図りながら保育の充実に取り組む。	・少人数体制の中、職員間で十分に連携を図りながら教育活動に取り組んでいる様子がうかがえる。統合に向けた準備を進めながらも安定した運営がなされていると感じる。	A